

よくわかる がん・心臓病・脳卒中

現代日本人の死因の6割を占める「がん」「心臓病」「脳卒中」。その予防法や最新治療などを専門医がわかりやすく解説します。



乳房温存療法と乳房切除術



手術部 部長
外科 主任医長
針原 康

がん

広まりつつある乳房温存療法

乳がんの手術治療では、縮小手術である「乳房温存療法」が広く行われるようになってきました。乳房温存療法でも、従来の乳房切除術と同様の治療成績が得られることが分かっています。乳房温存療法とは、乳がんとその周囲の乳腺組織だけを切除する術式で、皮膚や乳輪、乳頭を切除することはありません(図1)。一方、乳房切除術は、乳がんを含む乳腺組織を周囲の脂肪組織とあわせて、一塊として切除する術式で、乳がん上の皮膚や乳輪、乳頭も一緒に切除されます。(図2)。

乳房温存療法が行えるかどうかについては条件があります。その条件とはがんの大きさが3cm以下であること、がんが多発していないこと、広範囲の乳房内進展(乳がんはしこりとして触れるよりも広く広がっていることがあります)を伴っていないことなどです。乳輪や乳頭を残す術式ですので、乳がんが乳頭のごく近くにあると、乳房温存療法が難しくなることもあります。

残す代わりに放射線照射が必要

乳房温存療法の利点は、乳輪や乳頭とともに乳房の形態が残ることです。一方、問題点としては、残った乳腺内に乳がんの再発が認められることがあること、またこの乳がんの残存乳房内再発を防ぐため、必ず残存乳腺組織への放射線照射を行うことが挙げられます。

放射線照射は通常25～30回行われます。ただし、たとえ残存乳房内再発が起こったとしても、その時点で乳房切除術や追加切除を行えば、最初から乳房切除術を行ったのと同じ治療成績が得られることが分かっています。当院でも条件が許せば、積極的に乳房温存療法を行っています。

図1 乳房温存療法

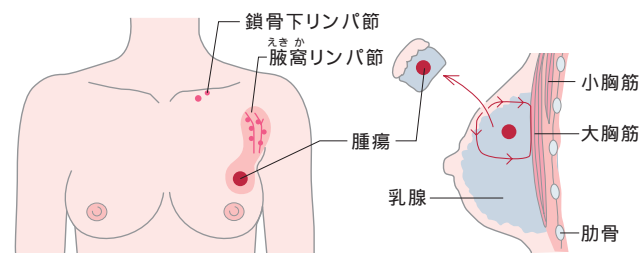
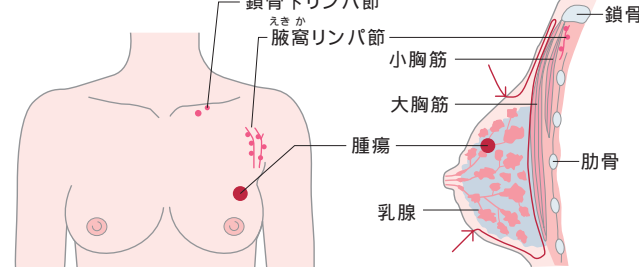


図2 乳房切除術



冠動脈バイパス手術後の再発を防ぐために

心臓病

心臓血管外科
主任医長
中谷 速男



バイパス手術前と同じ症状が起きたらすぐに相談を

冠動脈バイパス手術は、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患に対して行われます。手術後の重要な目標は、狭心症のない良好な生活の維持と、新たな心筋梗塞や不整脈の原因となる狭心症の再発予防です。手術終了すなわち生涯完治、というわけではありません。

狭心症・心筋梗塞は、心筋を栄養する冠動脈の動脈硬化によ

脳梗塞はなぜ起こる?

脳梗塞は、脳に栄養を与える頭蓋骨内外の血管が閉塞したり、狭くなったりすることによって、脳の細胞が死ぬことにより起こります。脳の細胞は、人間の体の細胞の中で最も弱い細胞で、まったく血液が行かなくなると数分で死んでしまいます。

血管にはいろいろなバリエーションのネットワークがあり、どの血管がどれくらいの時間閉塞したかで症状が変化します。一般に、太い血管が閉塞すると強い症状が出やすく、細い血管の閉塞では手のしびれ、運動障害などの単純な症状が出やすくなります。

もし血管が詰まっても、その範囲の脳が障害に侵される前にふたたび開通してしまえば、いったん出た症状が回復し一過性虚血発作(TIA)といわれる病態となります。

脳の血管が詰まる原因として、脳に栄養を与える血管(頸動脈や椎骨動脈、頭蓋内の血管)が動脈硬化性病変によって狭窄・閉塞するもの(脳血栓といわれる)、また脳の内・外から血栓等が血流に乗って流れてきて脳の血管をつめるもの(脳塞栓といわれる)、比較的まれですが外傷やそのほか生まれつき動脈の構造が弱く動脈が裂けたもの(脳動脈解離といわれる)などがあります。

脳梗塞の治療と予防

一口に脳梗塞といってもさまざまなタイプの脳梗塞があり、まずそのタイプ分けをしっかりと診断し、早期に適切な治療方針を立て実行するのがとても重要です。当院の脳卒中センターではこれを複数の医師・パラメディカルが協力することで可能にしています。

そのような脳梗塞を起こしやすいグループでは予防医療心がけ、また、一度かかってしまった患者さんでは、再発の防止が極めて重要な長期治療となってきます。

狭窄や閉塞が原因です。そのため、動脈硬化がコントロールされないと、手術時には病変のなかった冠動脈やバイパスした血管に、新たに病変が起きる可能性があります。

再発の症状としては、治療前と同様の症状(胸痛、しめつけ感、息切れなど)を自覚される場合が多く、その際は症状の程度は軽くても、主治医に相談する必要があります。症状がない場合でも、定期的な負荷心電図や心筋シンチなどで発見される場合もあります。

再発を防ぐために生活習慣病のコントロールが重要

再発予防には、動脈硬化と関連する生活習慣病を、根気よくコントロールし続けることが重要です。特に、若いとき(60歳以下)に発病した方はそれだけ動脈硬化の危険因子が強く、高齢で手術された方より再発には一層の注意が必要となります。

動脈硬化には、年齢、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙、肥満などが関連し、全身の動脈に生じます。心臓以外にも脳梗塞、下

脳梗塞を知ろう(2)

脳卒中

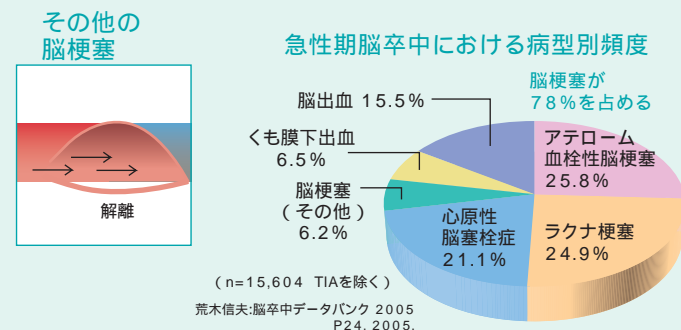
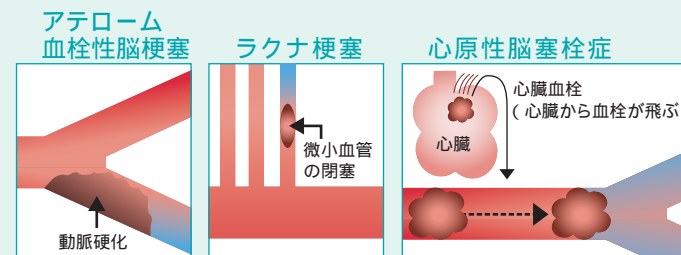
脳神経外科 部長
脳卒中センター長
森田 明夫



脳梗塞のタイプ

脳梗塞には大きく分けて、アテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞、心原性脳塞栓症、その他の脳梗塞(脳動脈解離やもやもや病、その他の全身疾患に合併する脳梗塞)の4タイプがあります。

今後4回にわたって、それぞれについて詳しくまとめていきたいと思います。



肢の閉塞性動脈硬化、大動脈瘤、腎硬化症などを引き起こします。心臓に再発がなくても、このような病気を次々に発症する方もいます。

糖尿病・高血圧などは、生活習慣のみならず遺伝的な背景もあり、薬による治療も重要です。しかし基本は、やはり日々の生活習慣です。食事制限、塩分制限、禁煙と「あれもこれもだめ」と考えるとつらくなります。手術後は多くの方が、手術前より楽に歩行などできるようになっていると思います。「どんどん体を動かしていいんだ、いろいろなものをバランスよく自然に近い味(薄味)で食べられるんだ」と考えて、どうか取り組んでください。

